

審査員特別賞

理工学部 システムデザイン学科 3年

三橋 瑛さん

『潮騒』／三島由紀夫著／新潮社

こう言ってしまうと反感を買うかもしれないが、三島由紀夫の『潮騒』はとても都合の良い作品だ。島の世間知らずな少年がきれいな少女に一目ぼれし、いろいろと困難が訪れるが、結局はすべて解決し、無事二人は結婚することになる。僕はこの作品を初めて読んだが、はっきりと好きになれないもやもやを感じた。だが、同時にこの作品のキーポイントもこの点なのではないか。

僕たちの生活や恋愛は、こううまくはいかない。この作品で描かれている島の暮らしは理想だ。だからこそ、『潮騒』に描かれている恋愛の理想を圧縮したような、いわば宝石のような恋愛を僕たちは夢見るのだと思う。僕は三島由紀夫という文豪のことをほとんど知らないが、そんな理想を信じている、夢見る小説家のことをちょっぴり好きになった。